

菊池史子 個展 「シコノカン」

Solo Exhibition by Fumiko Kikuchi

2015.2.14 (Sat) —28 (sat)

日、月 休廊 Closed on Sunday, Monday

12:00 — 19:00



勇敢な2人のポートレート

2014

600×500 mm

モノタイプ



BAR YUKI-SIS 2.21 (Sat) 19:30~

「2つのフィールドとワーク」ゲスト：原口香英（多目的打楽器奏者）、菊池史子

★入場料はいりませんが、ドリンクをお求めください。ビルの施錠上、21時までにご入場ください。

YUKI-SIS

東京都中央区日本橋本町 3-2-12 日本橋小楼 202 03-5542-1669

info@yuki-sis.com <http://yuki-sis.com>

3-2-12- #202,Nihonbashi Honcho,Chuoh-ku,Tokyo

103-0023,JAPAN +81(0)3 5542 1669



姉妹のポートレート

2014

560×750 mm

モノタイプ

YUKI-SIS では、2月14日(土)－28日(土)菊池史子展「シコノカン」を開催いたします。

菊池史子は1986年生まれ。2009年日本大学藝術学部(芸術学科絵画コース/版画)を卒業後、渡独。現在ドイツ、ブラウンシュバイクで作家活動を行っています。

版画を専攻していた彼女は、“記憶”や“関係性”をテーマに撮りためた写真を厳選し、版画で使う雁皮紙や洋紙に染料を写し取り作品を仕上げています。どこかで見たことがあるような、デジャヴー既視感を起こすような作風は、人の奥底に潜んだ記憶にそっと寄り添い、時とともに薄れ消え去っていく風景、人の感情、人とのかかわりを思いおこさせてくれます。

今回の個展のタイトルは「シコノカン」。

指呼の間...呼べば答えが帰ってくる程度の距離。

ここでもなく、あそこでもない「そこ」という距離。外側と内側のちょうど中間地点。

偶然に菊池が出会ったという、1930年代のプライベートな家族写真を元に版を制作、さらに1970年代のドイツの家に使用されていた、外側(パブリック)と内側(プライベート)を隔てているもの(家、扉、窓、カーテン、壁紙など)が2層目のイメージのモチーフとして使われています

2つのイメージが重なり合い、その2つのイメージの間にどんな関係性があるのかを探りながら、他人のプライベートな記憶が私たちのプライベートな記憶に混ざり合い、溶け合う瞬間をぜひ体験してください。

関連イベント



BAR YUKI-SIS 2.21 (Sat) 19:30~

「2つのフィールドとワーク」

ゲスト：原口香英（多目的打楽器奏者）

聞き手：菊池史子（作家）

今回の BAR YUKI-SIS にはドイツから一時帰国する作家の菊池史子と、多目的打楽器奏者として興味深い活動を続けている原口香英さんを迎え、「フィールドワーク」、「農耕民族と狩猟民族」などアートと音楽の境界を超えたクロストークを繰り広げます。原口さんのミニライブもごぞいます。ぜひお越しください！



原口香英（はらぐちよしふさ）

1979年熊本県菊池郡生まれ。大阪府育ち。東京都在住。幼年時代、和太鼓の演奏により、音の響きに興味を持ち始め、エレキギター、エレキベース等の弦楽器、またドラム、ジェンベ、ボンゴ、タブラ、ディジュリドゥ等の民族楽器を経験し、2001年秋より本格的な活動を開始。2013年、自然のリズムを学ぶため、高知県で山生活を体験。山が織りなす風景、奏でる音色に感銘を受け、自然から得たインスピレーションのもとに、楽器の持つ可能性、また、身体の可能性を追求。手や足を縦横無尽に使い、一般的な身体の使い方にとらわれないスタイルを確立。現在スリットドラムを中心に臨機応変な即興曲、構成された組曲ともに独自の色を反映し、複数のバンドでパーカッションを担当する。最近では自主企画イベント HANDS を主催する他、親子向けの参加型ワークショップを開催するなど、幅広く創作活動に取り組んでいる。

公式ウェブサイト：<http://didjerid.wix.com/yoshifusaharaguchi>